川崎 諭

田中 一雄

『一見 極・マ・ナ』
生先郎三平島高問顧

モドコ

行発社 モドコ

数面絵 vez 白亜のいな

毎月一本日

七五町林村川石小京東
三六九七二京東政振
フレーベル会に対する希望

私はフレーベル会即ち本会の創立以来、或は評議員や亦は客員やらなかく責任のあり名誉ある位置においていたいたのでありますか何の御役に立ちないで誠に相すまぬ事と思うて居ります。

次第で御座います、お話といふほどの事もありませんが、今度は高志京都に於いて盛大に衆会に於いて感じました事を一申上げて置たいと思います。

フレーベル会といふのは以前に女子高等師範附属幼稚園内にあった幼兒保育法の研究を目的とし、協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきないかと云ふ事で一所に協同して研究し合うべきなく、広く幼兒について研究して其発達をはかる。
幼稚園教育雑感

（フレーベル会総会に於ける演説）

東京音楽学校教務長

遠 原 一

研究の為に場合によっては幼稚園出身の一学級を組織して進歩の出るものはささせて見るのも一つの試験になりはせぬかと考えられます。とくとめもなくすゝむノ事ヲ申上ましタが萬

題しました通り私ハ雑感ヲ申上げて見たいと思います。

我が国の幼稚園教育はよほど進んで居るのでも御座います。此事ハ日本で自稱して居るものに示

欧米の各國に於てもすでに之を認めで居るの御座います。

しかし、更に幼稚園の任務及び将来の運命というような事について一考して見ると、まだなかなか

大問題が残って居るやうに思はれます。
できても、大分困って居るといふ貧民が少なくない。
六年を八年にしたいといふ計画をさへも行は
れかねて居る有様であります。然るに此上にな
ば幼稚園へ義務的に入れるさせようと云ふ事は到底出
不来ない事のやうに思はれる。
今一つ此事の行はれがたい事情がある。それは
幼稚園の問題であります。現今女子教育の目的は良
妻賢母となって居る。その良妻としても賢母とし
ても最大切な務めは子供を教育するといふ事であ
ればならぬとなると、幼稚園で賢母の仕事を取り
あげるやうになるはしまいか、少くとも半以上
家庭の仕事を減じる結果になりはせぬかと思はれ
ます。それを絶対的に子供を教育するといふ事であ
るつもりはないのであります。しかし、幼稚園の
効果が著しいといふ事を認めただ以上、此始末をと
うするかといふ事は、さしつかえないと云ふで
はないが、長い間には教育家が考へなければなら
ぬ問題であらうと思ひます。
勿論幼稚園は、家庭の仕事の奪ひ取る為でな
く、之を補充しようといふ主張のもとに設立され
て居るのです。が、實際は幼稚園に入ると、家
庭の方で油断して一切任せてしまったといふやう

家庭教育は、家庭の責任を重ねることで、家庭の教育を受ける子供の成長を促進します。子供が家庭で学び、成長するためには、家庭の環境が重要です。

この点について、西洋では、学校の役割を重視しています。西洋では、学校が子供たちの教育を担当しています。子供たちは、学校で学び、成長するためには、学校の教育が不可欠です。

しかし、日本では、子供たちの教育は家庭の責任となっています。家庭教育の重要性は、子供たちの成長に直接関係しています。子供たちが、家庭で学び、成長することが重要です。

したがって、家庭教育の重要性は、子供たちの成長に直接関係しています。家庭教育の重要性を理解し、子供たちの成長を支えるために、家庭教育の重要性を理解することが必要です。
労働時間も出るだけ少なくして、それで夕方に
家庭に帰って子供の顔を見て楽しむようにと
いっしょに社会政策をもって居る。ベルリンなどでは
全く貧乏人らしいものは見えません。衣服なども
やっと整頓して居るので一寸見ではわからないの
です。貧民窟なども高壮な建物の中に居るのです
から、外からはどうしてなかなか立派なもので
中には可なりの貧民が住んで居るが、とにかく社
会政策がそうした風にもってあるます。そしてま
たそれが自慢なのです。
それでは幼稚園の如きも明に托児所の性質を帯び
工場内に幼稚園を設けて、その職工の子供は必ず
工場内の各組織のものもあります。幼稚園では
工場の職工の子供も居ます。中流以上の子供は
入るのもあります。独立した幼
稚園では三歳から四歳までを預る處もあります。他
と同様に四歳から七歳までの子供を預る處もあります。

英連察看大学の小中学校は、高等中学校程度
の学校に中学校小中学校幼稚園などを附属して居る
歴史を有しており、中流以上の子供は必ず預る方です。　

私が見た幼稚園は必ず両親が朝送って来て夕方
に帰るもので、家庭でよく教養する事の出来ない
貧民の子供の為に設立されたものであるといふ事は
動かすべからざる原則のようであり、日本の
幼稚園とは由来を異にして居るやうであります。日本の
見やうによつては、日本の幼稚園はその基礎が甚
た薄弱であるといふ事も出来ると思ひます。必要
に迫って居る方面をなげやりにしてあります必要の
ない處に力傾を入れて居るのではないかと思はれ
る。

餘裕のある家庭で、子供を幼稚園に入れる結果
主婦が家庭の義務を務めるといふような事にな
りはしないであろうか、子供を幼稚園に入れた為
めに、主婦の最大切な務めである子供の教育を怠
るといふような事があつては由々数え一大事であり
ます。幼稚園は家庭教育の補充をなすに過ぎない
といふ事を主婦たるもののがよく承知して居な
くてもならないと思ひます。西洋では家へホーム
に帰ると叫んで居るのに、家庭本位の我國に於
て、家庭が空虚になるような事があつてはそれこ
大変であります。上述述べましたやうな次第でありますから、幼
稚園教育にあづかって居られる方ではよい家の子
供ばかりなく、どうか可愛いような労働者の子供を
提供することに於て何等の考慮を แต่ถ้า

におけられることを希望に堪へないので御座います。幼稚
園はフレーベルの昔に帰って居る所の性質をも
った平民的のものにしたいもので御座います。近
来西洋では、いよいよの方面に幼稚園を設けて居
る。看護婦の同団體が慈善的に貧民の子供を集め
る。
緊急御注意

本会主催全国幼稚園関係者大會の義につき、全国幼稚園の御賛同を得て、先月十五日迄に御返事願ふ趣、先般書面にて御照会致しましたるに、従して末何等の御回答なさる風があまりますのは遺憾至極であります。何卒至急御賛同の御表明御一報下さるよう重ねて切望致します。

○編者より

○今年も本誌を以て終わらせず、寄稿者諸君及び読者諸君の本誌に対し、一部の御理解を仰ぎました御賛同も、いさも第十二回に就て完し、御 Abyss の通り、フレーペルの御都としての未だ途中でありました。殊に、御生涯の最も興味深い部分が浮出つつあるフレーペルの一生に大関係を持つ幼時から、教育の歴史に於て、フレーペル自身の影響ある発表法を以てつつゆく関係などをフレーペル自生の一貫的、基礎的な参考を以て得られる点は、必ずしも、フレーペル研究上の BASIS のではないことはあります。従って、普通の読者のもとに於いて、以上の資料の日本語化を意図することは、断然に、フレーペル研究に缺くべきであると感じます。
<table>
<thead>
<tr>
<th>日</th>
<th>月</th>
<th>年</th>
<th>分</th>
<th>秒</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

なお、詳細な記載が必要な場合は、以下の項目を碧に記入ください。

- 名 前
- 連絡先
- その他必要な項目

上記の情報は、必要に応じて適宜使用されます。
<table>
<thead>
<tr>
<th>年级</th>
<th>一</th>
<th>二</th>
<th>三</th>
<th>四</th>
<th>五</th>
<th>六</th>
<th>七</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>男生</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>女生</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
</tr>
</tbody>
</table>

- 注：该表格显示了不同年级的男生和女生人数。
長の各区域で、例えば第一線は二尺五寸より二尺八寸五分まで即ち二尺九寸の区域、第二線は二尺九寸五分まで即ち二尺九寸九分の区域、第三線は二尺九寸九分まで即ち三尺の区域を示すので、以下之れも同様の意味であります。

そこで四年の男児の身長を此表で調査して見ると、二尺八寸の者の

百分七人

二尺九寸の者の

百分十人

三尺の者の

百分三人

百分三人

二尺九寸九分までの間の者でありますから、三尺二寸三十三人

四寸の者の

百分二人

三寸の者の

百分二人

い、即ち二尺九寸九分までの者の年齢に於ける男児の身長標準と謳めることが出来るこの

千四分三寸三十二分

二種の方針に依って得た結果の比較

すでに述べた如く、各区域に於ける男児の年齢標準の標準差を示す者であります

第一線に於ける唯一個の標準差を示す者であります。而しその

年齢に於ける種々の差違程度を示すのであります。而しその

差違に於て唯一個の差違が第一第二第三第六等の如く

他の表の如く異った年齢に於ける差違の様を示す者と

差違、年齢の増加と共に次第に右方に移動して居るのを発見するのであります。且又第一種の算術平均の結果と、差違の最小数差違の結果とを照合して見ま

すと、大差のないことが解ります。
<table>
<thead>
<tr>
<th>七</th>
<th>六</th>
<th>五</th>
<th>四</th>
<th>身長</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>女</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
</tr>
<tr>
<td>VII</td>
<td>V</td>
<td>VI</td>
<td>V</td>
<td>I</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>12</td>
<td>4</td>
<td>18</td>
<td>13</td>
</tr>
<tr>
<td>I</td>
<td>II</td>
<td>II</td>
<td>III</td>
<td>II</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>11</td>
<td>27</td>
<td>25</td>
<td>21</td>
</tr>
<tr>
<td>III</td>
<td>I</td>
<td>IV</td>
<td>III</td>
<td>VII</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>31</td>
<td>14</td>
<td>18</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>IV</td>
<td>III</td>
<td>VI</td>
<td>V</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>20</td>
<td>4</td>
<td>7</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>VI</td>
<td>V</td>
<td>VII</td>
<td>II</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>7</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>VII</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>六</td>
<td>五</td>
<td>四</td>
<td>指</td>
<td>五</td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
</tr>
<tr>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>男</td>
</tr>
<tr>
<td>VIII</td>
<td>1</td>
<td>VI</td>
<td>VIII</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>VII</td>
<td>3</td>
<td>I</td>
<td>VII</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>V</td>
<td>II</td>
<td>V</td>
<td>V</td>
<td>19</td>
</tr>
<tr>
<td>IV</td>
<td>9</td>
<td>III</td>
<td>II</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>II</td>
<td>21</td>
<td>I</td>
<td>V</td>
<td>8</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>25</td>
<td>IV</td>
<td>VI</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>III</td>
<td>21</td>
<td>VI</td>
<td>V</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>VIII</td>
<td>VII</td>
<td>II</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>VI</td>
<td>4</td>
<td>VIII</td>
<td>I</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>VII</td>
<td>2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>五</td>
<td>四</td>
<td>頭</td>
<td>園</td>
<td>七</td>
</tr>
<tr>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
<td>---</td>
</tr>
<tr>
<td>女</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
<td>男</td>
<td>女</td>
</tr>
<tr>
<td>IV</td>
<td>III</td>
<td>1</td>
<td>II</td>
<td>II</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>56</td>
<td>27</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td>16</td>
<td>9</td>
<td>2</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>I</td>
<td>I</td>
<td>I</td>
<td>I</td>
</tr>
<tr>
<td>58</td>
<td>73</td>
<td>49</td>
<td>26</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td>III</td>
<td>III</td>
<td>50</td>
<td>67</td>
<td>IV</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>11</td>
<td>7</td>
<td>5</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>VI</td>
<td>VII</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>V</td>
<td>VI</td>
<td>13</td>
<td>18</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>25</td>
<td>22</td>
<td>23</td>
<td>16</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>12</td>
<td>3</td>
<td>9</td>
<td>14</td>
</tr>
</tbody>
</table>

---(542)---
われ

ちば

今朝不園散りの木の葉の窓をつつみ見て作りたる幼稚園向け唱歌三節御笑草迄お目
にかけ候(編者宛掌輯の末に)

わら

木の葉が落ちる

おちてはかさなりおちてはつまる

ここにこともひにもつまった木の葉

また来る春までしほかにねむる

木の葉よまた来る春に

若芽となるまで其のまいまに

『ポール・ドンビー』(ダンケンス)(五)

英文書に現れたる子供(二十四)

岡田みつ

(548)
分配の事や、自分が異様だということを述べて、
力がないのである。そういったのが聞こえた。

「ボールは何の事だろうと思うた。」それになる、あの
少年は十二日、学校の人達に別れののを定め込
んで居まえから、容様が変わるからそれで望め
れない。コーチさんを舞踏会に

は起き上って、藥剤師の間で答へ、どうか姉

来たか何時でから来たのだか、ボールは

少しも知らなかったが、鬼に角二人を見ると、ボ

ールは起立てて、藥剤師の間を舞踏会に

に知らせて下さるな。是非姉さんを舞踏会に

来させてよいのです。ど、元気よく凍否した。そ

れからボールは目を閉じて横になってる。暫

りにしてもやった方が宜う御座いましょう。ドンビ

君にはもう少し病状が明瞭になってから、御通

子は利発ですが風変わりの子で、な、とうも聞こえた。

風変わりといふのはどういふのだらう。自分につき

縄ってゐるらしいもので、皆の人にすぐ目に付く

らしいが、ボールは胸をどきくさせながら独

り狂んで居た。しかしとうして解らないし又解

ろうと骨も折らないでゐるうちに、ビッチンさん

が傍へ来て、ビッチンさんは藥剤師と一所に出て

いた言うにも思ったが、やつばり夢であつたか

ちんさんが藥を注いでくれた。其を飲むと、あとで

(544)
美味しくジュリーを食べ、其から何でも気分がよいくらと強って頼んで、ビッチンさんに帰ってもらったようであった。

翌朝は、小使が朝の鐘を鳴らさぬうちに来て、ポールに一目窓であるようにとの命を傳へたので、ビッチンさんも薬剤師も来て、遠くで相談をし、あなたがそれとても夢に其を見たのかを知れない。

やかて、薬剤師は、ポールと夫人と三人連で入って来て、薬剤師が、「先生、今日の生徒さんは、晩く学課を休ませて、上げてよろしいでせう。休暇ももう直すべきか宜しいとも」と博士は答へた。

薬剤師は、身を屈めて、ポールの眼を見たり、頭部に触れたり、脈をとったり、心臓を撫でたり、あんまり一心になって診察するので、ポールはとうとうも行りがうち御坐います。と御詣をいつた。

「ええ。余程快い方で」と薬剤師は答へた。

「今朝は余程よい方ですか。」

「ええ。余程快い方で」と薬剤師は答へた。
日は、と挨拶をした。彼を応対に「ボールは話をしてきた。自分は近藤病気だよ、小森から時計や鐘
のあること、を聞かせた。こうして、時計が来ると思ったのに、時計が来ることなく、時計が
ないのです。結婚式の時、と実際違ってのだろうか、そのくらい騎士の気のせいで違った。聞き
えるだけのだろうか、それ、と問いかけた。この職人は、思い出の鐘の話をしてよく
知らぬ如きので、ボールの方からその事の起源を数えていったから、実際商売的に考え
てみたら、どうして、考えたという感じが、実際に商売的に考えた職人
は、今の世にそのような事が生まれたら、時計屋は
商売が立ち行まないといつ。そんな工合で、ボール
が時計がすっかり修繕が済んで、元の見取り
た職人を留守にし、坊や、そんなにすすり返すや
うになるまで見物してあった。職人は道具を片付け
て、ボールに挨拶をして出ていったが、戸口で学
校の給仕に、小森で「風呂だな」といつて居た
のが、「ボールの耳に入っただけ。皆が気の毒がるその風呂だというふものは、どのように
いふものだろうとボールは考へた。今、学課もせ
い用事がないので、彼は小森のことその事を居
へた。しかし、他にも考へる事が居っと水にあたったので
一に、「小森さんが舞踏会に来る」というのが、一つ。「小
さんは、此處の人が自分を可愛がって奥れてある
のを見て、きっと喜ぶだろう。小森さんが目があた
り、皆が自分に親切なのを見れば、自分がこの学
校に居るのを楽しみくなるだろう。休み後に自分
が帰るするとしても、小森さんは安心して自分をよ
すうちがいないなと思えた。
ボールは日何度もなく、自分がの部屋へいっては
書物を集め、細かい品物までを繰り返しにして、家
へ持って行く支度をして居た。ボールの心には、
戻って来る念は少しもなかった。何をなし何と思
ふにつけでも、彼の心には戻って来るといふ気は
なかった。見到れ、聞到れた事々物に接すること
に、これにも御別れ、彼にも御別れといふ風に思っ
たので、さしてこうポールは、朝から晚まで考へ
る事ばかり多くあったのである。

ボールは、ヒージの事、フーダー先生の事、生
徒一の事、ズーパー博士、ズ夫人、ズ娘の事、父
の事、伯母の事を、皆考へた。その上、ボールは
一日の中に必ず学校内の各室を訪れた。校内の諸
室へ自由に出入する事を許されてゐるのに、教室
へも、博士の書齋へも、ズ夫人、ズ娘の居間へも、犬
の處へも尋ねていった。あらゆる物と仲よく別れ
する事もあった。どう思ふので、凡ての物に平等に注意を営った。

時には、室友の爲に紛失した本を探してゐる時も
あり、時間が追つて困つてゐる生徒に字書を引い
てやる事もあり、ズ夫人に席をかけてゐたたり、
ズ娘の机を片付けたり、偶に是博士の書齋にまで
入つて博士の足許近くついて、地球儀をそつと観
つてゐた。

もう休暇も間近に迫つてゐるので、生徒等は必
死に勉強してゐるのに、ボールは、獨り特別待遇を
うけて、人々の愛を一人で荷つてゐた。ズ博士が
特殊にボールを大切にしてゐる、ある食事の時に、ジョーン
とノードと生徒が何の気なしに、ボールを可憐想
な子だというのを立腹して、食卓から退席を命
じた事があった。ボールは寸顔を赤めたが、博士
の處置を酷だと思つた。何故とふ Imports Tracy
夜、ズ夫人が、ボールは大に僕に恋に変わりますよ
といったのに、博士自身が同意したので、ボールは
確に他所ながら聞いたのであるから、ボールは、
どうすべきであつて、體重が軽くこちるに疲れて、其處
等に仆れたくなるのが、風変りといふものに相違
あるまいと鑑定した。

舞踏會の日にあった。しかし食事の時には декаб
の催しについては誰も思ふ何の話しも為なかつた。

(547)
たしボールは、家の中をぶらぶら歩いてくる中
に、見つれた腰掛や蠟燭立を見付けたり、客間の
外に、緑色の被ひのかつてある立琴があるのに
気がついた。生徒の席では白チョッキに白ネクタイ
の人があちにこちに出席だった。ボールは、気
分が悪くて、長く立って居られないので、手早く衣
服を換えて、客間へ下っていって見た。すると、博
士の礼装をして、室内を歩いていたがその様子が
二人訪問者があるかもしれぬといぶ須の無造作
の態度であった。やってズ夫人も今日もよく装
いで出て来てられた。夫人の装が、とつて四方に拡が
ってあるので、ボールはその周囲を一巡するのも
大運動になると思っただ。次に現れたのがツネ
とフーダー先生で、二人とも他處から来たかの
よう。手に椅子を持って居た。取次が博士に、
その名を通じると、博士は、これはよく御出下すっ
た。といつて顕然敬待する風であった。ソープは
目も眩いように寛石を付けて来て、それが御得意
だと思えて、博士に握手をし、ズ夫人とブ конкурсに御
辞儀をしてから、ボールを小傍へ連れて行って、之
はどうだ。何と思ふかね。と尋ねた。その内に
生徒等が皆来立って、他處行の帽子を手にして
すぐ取次の案内に連れて入って来たので、舞踏
の始めに急近した。
ボールは、長椅子の隣に陣取って、此光景を眺め
て居たのがフローレンスが来た頃だと席を立ち下り
て階下へいった。彼は二週間程も、姉に逢はずに
居たのであるから今フローレンスが、あつさりし
た舞踏服に、花を手にして入って来て自分を抱き
いやうの気がして姉の美しい顔を抱かす眺め入つ
て居た。
 Kaleidoscope of Time: 548

「何でもないのよ。何でもないのよ。」とフロー
レンスが答へた。
ポールは指で姉の頬を撫でると、果して涙であった。ついたので、

「ただって、姉さん！」

「一所に御うちにいつて、私看病して上げるわ。」

「看病するの。」とポールは繰り返して、看病が何の為かも、何故姉が顔をいそぎ、そのう急にこくくして見せたのだか解らなかった。

「姉さん。」とフロレンスの髪を一本引張りながら、「申し訳ない。フロレンスは笑って、湯を可

「そんな事はない。」といった。

「でも皆さんが左様にふのですよ。で、僕はそれが

そうふのだと知りたいと思って、丁度その時に、玄関に案内を乞う者がいて、新

来的客がおりそうなので、此様は途切れてしまっ

時々傍へ来て、病気の見舞をいつくされたり、疲れ

はせぬとか、頭痛がするとか、いつて尋ねて呉れた。ポールは、ほんとに嬉しいと思いながら、

その隅の席に乗り、ほと懐に身をもたせて、眺

そして居ると。姉さんは一踊り舞踏をするときと同

へ来て呉れた。フロレンスは舞踏するよりも弟

の傍に居たいと思ったが、ポールは舞踏して呉れ

と勧めてはやらせてやった。見物してゐるポー

ルは皆が姉を賑めるし、ことに、姉がその夜の花で

あったので、得意さを満面に現してゐた。舞踏が一寸途切れた時に、お客様のうちに一貴婦

人が、ポールに「あんな音楽が御好きらしいのです。
ね。それからボーレが嘘を告げる時になった。それが、どう言えば良いか、少し考えた。彼は、嘘が、本当のことを隠すためのものです。彼が言う通り、嘘は、時を守るために必要だというのかも。どうしたら、彼が、嘘をつかないのかも。

「さあ、どうするの？」「ええ、どうするの？」

すると、彼は、嘘をつかない方法を教えた。「嘘をつかないように、考えることだ。例えば、嘘をつかないためには、常に正直さを守ることが大切なんだ。」

「でも、正直さを守るだけでは、嘘をつかないわけじゃないよ。」「ええ、そうかな。嘘をつかないためには、自分の心を守ることが大切なんだ。」

彼は、嘘をつかないための方法を教えた。嘘をつかないために、自分自身を理解しなくてはならない。嘘をつかないためには、自分の心を守ることが大切なんだ。
でした。御機嫌よくね。としみじいつて呑むを
したので、ボールは、こんな風のある人とも知らな
いのであったと思った。

「ボールがあらゆるんだ。」ホッピングがあたるところ
だ。」というふうに、ロパに伝はって生徒一同ボ
ールとプレーレーンとのあとはいて階下へいった
フリンパー家の人は勿論のこと、こんな光景は、此
校かつ以来、どんな人の退学をする時でもかかっ
たし、何とールでボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げるなど、喧騒
騒の生徒等はボールに別れを告げ

「ドンピーユ君僕を忘れないでくださいまい。」と怒鳴

「もあつた。ボールは姉に外衣は着せてもら

「たいながら姉に小声で、

「皆のあの騒ぎがきこえたか？と女忘れられな

「いね。嬉しいではありませんか。姉さんも嬉し

「でせう。」といつて、如何にも喜ばしさ Kum

「彼女は、思い定めた時より早く他へ移すと、身体

「病人が思ひ定めた時より早く他へ移すと、身体

「が弱くなってる反則、思い込んだ一念は強のですか

「も、却って冬に衰弱して果てるのをせ。」と言つ

(551)
自由に私自身を振り離すことが出来るようになった。時極度の喜悦を感じました。八一一年の七月の初頃私はゲッターダンヘ行きました。学期の中途ではありましたが私は速速と出かけたのでありまし、何故ならば私は私の内
的生活を外的活動と調和させ私の思想を私の行動
と一致させるべき手心が分るまでには数ヶ月を要
するであろうと考えたからであります。そして私
が私の心の内に平安を得又私が前に取って大切な
内的生活と外的生活との結局並びに目的と生涯と
方法との中に横る等差必要の認めらる、調和に
達するまでのには実際数ヶ月を要したのでありま
す。完体としての人類、偉大なる渾一としての人
類は今や私の淡薄なる思想となりました。私のこ
の概念を常に心に浮べて居りました。私は私の小さな内世界を私以外の大きな世界
とにその実証を追求しました。私は多くの苦闘を
経てそれを獲ようと望みました、而してそれを立
派に発表しようと心にしました、斯くて私はが地

八十五、ヘブライ語とアラビア語

語学的研究、語学の習得、語学等は今や私の研

修の対象となりました。東洋語学の研究は私の調

査が私を誘って行った中心であり泉源であるやう
に私は見ました。而して私は直ちに東洋語学
研究の第一着としてヘブライ語とアラビア語とを
始めました。私はヘブライ語とアラビア語とを
つけて他の零細零系の研究に就て私を聞いたらことに
在れました。私は等の語学の研究に就て私の聞いたことに
とつけて力強く刺激され惹き付けられました。
私を惹き付けました。
私のすべての時間とエネルギーはヘブライ語とアラビア語のためだけに献げられました。しかし、私は正直正確の熱心と自分を持たせることを解してはしませんでした。何らかの形で、私の心に適った語学を眺め、手と手の間に私の圧力と、それが何を意味するかを知る責任をもったのです。Languageが私に提供された形に於て私はそれを活用し、問題するようななかったでした。而かもそれによって私が教える人々によっては等の研究、も拘らず私が教える人々によっては私を学び、特殊にインド語及び波斯語の研究が実際によつては私の挑戦は、誇りを引くことに不可能であるであります。けれどもヘブライ語も Canucksمنعられなくなりました。けれども、一方に於て希臘語はすっかり私を魅了してしまいました。而して殆ど私の全時間と全努力は、私の生活を充実させているだけに、私は今や、自由で幸福で精神的にも肉体的にも健全で活気を充たして居りました。而して私は一度童話のため二三週間私の室に籠ってました外は油断なく勉強を続けて心内に也外にも平安を得ました。終日一人で勉強した後、落日から親しみな光の挨拶を受けるために夕方遅くなって散歩をするのが常でありました。

（556）
私の私を私を研究するべく再びその主張を繰返して来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止まって来た。この計画のためまに大学に何もと止ま
私の境遇は今や、何だ、愉快なものとなりました。而して他は未だ常つて感じたことのない悲哀的な愉快な勢力を感じました。秋の休暇にも暇じい家庭が私を待つて居りました。簡素な私の生活のため、盡してくれた田舎にて、兄弟姉妹は非常に深く私の母を仰いです。前は早もこの世を去る一を愛しました、而して今や再び愛する人の姿を覚えたのです。死が教育者としての私の生涯に必要なる高き教養を得ることを可能ならしめたのであります。

前は早もこの世を去る一を愛しました、而して今や再び愛する人の顔を覚えたのです。死が教育者としての私の生涯に必要なる高き教養を得ることを可能ならしめたのであります。

私の生涯と私に対する永久に生命あらんことを。

八十七、ハルツの山間
いくる休暇の全部をこの知識的な商人の家庭に
して行く。生気をぬった家族の間に過ごしました。
この訪問が私の総合的発達の上から言って私に
非常に役立ちたといったふることとは勿論であります。
して私はだれそのことのために今でも思出して感
謝の念に耐えません。
私は今や私の生活を別の研究所に帰らねばならぬ。
物理学、化学、鉱物学及び一般に博物学と称するものは私
を形造るよう見えております。而して是等の本質的
の主な研究問題であります。
すべてのものを包括しそれ自身に於て条件付け
られてくるべきからざるもしこれ内の法則と秩序
は今や明らかにその自由を私に向って現し出しました。
そして私は自然界にも人生にも、どの数の
表現によって複雑差等に大なる相違があるとはい
へ。この秩序の現れてゐないものを見るときは出
来るましんでした。
丁度この頃フランス及びイギリスの哲学者の偉
大なる諸発見が一般に知られるやうになり、それ
について多種多様な外的問題が理解的な外的渾一
に条件付けられた根拠的諸法則をそれぞれの最も
正確な表現に於て又それらの相互関係及び結合に
重量と数との用語を以て現さうとする獨逸及
び瑞典の哲学者の骨折は私の憧憬と努力とに丁度適
合しました。
八十八、マイケル教授の講義
自然科学及び自然研究は活気ある現象の截然た
る平面に属するでて同時に人類の進展、教育、教育
の法則と進歩の跡を明瞭にし定義することに於
て役立つ所の基礎であり親石であるといふように
私には思はれました。
斯る研究が全く私を惹き付けて私の全エネルギー
を働かし而して私を最も忙しくさせてゐたとい
ふことに不思議はありません。
私は能歩かざるの熱心を以て化学と物理学を

—(559)—
研究しました。けれども物理の教授は化学の教授
程十分に私を満足させてくれませんでした。現半
学年にてて理論的な立場から考察して来たことを
次の半学年に於て私は実際に生活の要求として室地
に研究して見ようとしたところです。私
化学と地質学とに移って行きました。
私は私が自然に於て認めることの出来た法則を
人の生活と行動とに試みようと望みました。乃で私は有機
有し得る最も価値ある富を数倶させる心及びその自
然の条件より生する事柄の適當な精神の中に横る
という大真理を明かに私に思い返されました。
私に更に富というもののが経済的な上によつ
貯蓄せらる、ばかりでなく生産力に発生しも
いることが出来ることがある及びその産出品はすべての中
最も価値あるもののなることを知りました。この産
出品は高価な觀念若ししくは驚嘆すべき思想の結果

(560)
十八の、個の存在の渾

ネストル＝デに兄と共に一二三間近くまつた後

一八一二年の十月私はペルシスへ行きました。

私の期待していた講義は思い通りに私の心霊の
要求を叶えてくれました。而して前にも増して熱
烈に宇宙の進展の可説的な内なる結合の確実性を
私の内に呼び覚ましてくれました。

私は又人類なこの宇宙の絶対的渾一并びにその
渾一の内にあって常に己を開発してしばしばある物事、
外象の不同を意識し得るやうになるものであると
いふことを知りました。而してそれから人の生活、
仕事、思想、感情、位置に於ける限りなく異った現
象もすべて人の個的存在の渾一に於て約束され
るといふことを意識しはつきりその事を心に思
はれた時私はもう一度教育問題に私の思想を傾
けたいと感じました。

私は大学で充分研究して行くことの出来るやう

に或る評判のい私立学校で教師をして居りました

私を独逸軍隊に投じてもらうのは全く他の感情である。私の熱誠は或は欠けていたかも知れません、しかし私の決意は岩の如く極めて強固でありました。その感情といふのは私が常心の内に高き厳かなる理想として懷いてきた純粹な独逸友邦の意識でありました。彼等が自国に直面する危険を認識することを切に望んでおった所の感情でありました。その上教育者としての私の職務に対して私の持ってゐた忠実がこの事に関し所の行動に影響しました。

私は後年私の教育を受けるべき少年達が父国土の故郷の父國を憂いながらも教育を受けるために私に何かを認めるべき没ぼつをなすべきなりませんでした。而してその事は思はねばなりません。武器を執って起こすべき若者が要求されながら、武人としての任務を念頭にその叫びを聞くと云ふ事を考えをするにさるる時、私を和らげる第二の主な理由であつたのであつます。これが私を動かした第二の主な理由であつたのである。

第三にこの召集は共に住る人々、私の生存し得る時代、私の生存してゐる土地の一般的要求である。この要求に対して飛躍を許さぬことは他にありない。何ぞ害しきてる險険を防がずに傍観してゐるといふことは意味のないことであると感じました。この確信の前にはすべての顧慮、斯る奮闘の
生活に対しては余りに華奢に出して余分の体格の顧慮をし、屏息してしまいました。九月、エルベ河畔の乾燥した砂原、私は同僚としてルッツォール軍団の歩兵部隊に入隊すべく通過中で、到着しました。私は自己集中の生活を送るために、自然性質が引込思案ながらも、自分自身を正しく保つことをします。他者に近づくために、彼等の中にお仲間に得る方法を見つけました。それは出来ませんでした。そこでドレスデンで会って、彼等の中には一人も知人を見出しませんでした。

私は軍隊で集まる友を作たなければならない。初日、朝ドレスデンから行軍して駐屯した時に、軍曹が私にチューリングラフを紹介してくれたからです。二人の友誼は斯くも偶然に始まりました。二人の友情は大抵私と同じくベリリオンの学生たちは勇い同僚は大抵私と同じくベリリオンの学生たちもまた、私の軍隊に入り、最初の日には合になったのです。第一日、朝ドレスデンから集まれた友と会って、自分の友を紹介してくれた。それが出来ませんでした。そこで、ドレスデンで会って、彼等の中には一人も知人を見出しませんでした。
私達は仲良く生活するために共に住んでいました。

しかし私達三人はより高い生活のためには私達は相まってマイセンの荘厳な大衛堂へ行ってきました。

斯くして私達三人はより高き生活のためには私達は相まってマイセンの荘厳な大衛堂へ行ってきました。

バウエルは私が部隊の中たり私達の狭い一団をさすために居りました。

ラントガルトとミッテルブルクを同じ部隊の中といて居りました。

バウエルといふ今一者の友を有って居りません。

私は彼よりも多分マイセンで知り合いになったと思ひますのがバウエルと私とが今に変らぬ友誼を結ぶようになりましたのは彼後のバウエルが居ていませんでした。

私達は外的を共にしない時に於ても至高至善なるものを追求する努力に於ては常に一體とな

斯くして体戦の期間の後に私達が絶え訓練を受け
行動が規則正しく明確で四角四面であるというこ
と混り気のない愉快を覚えました。軍隊教育
を深く立入って調べて見るとの認められたる必
要の下に自由のあることが分って来ました。
先に一寸述べたベルベルクに於ける我が軍団
の長居の間に私は私に許されたる時間の全部を
大気に接し自然に親しむことに費し私の内生活
を強めました。その頃丁度聴聞していたゲオリン
の自然の美しさの知識にまで開いてくれました。
私達友達同志は努めて互に會ふ機会を取りま
した。暫時すると私達は三人一何所に宿泊して容
易く互に會ふことが出来るようにし、そうと運動し
始めました。

私は露営生活を好みました、何故ならばそれは
歴史の多くを私に明かにしてくれました、而して
又層々親しむ愉しい労働的な行軍と機動演習を通し
て身だ中の相互関係を私に教へてくれたからであり
ます、それは戦前にあって個人といふものが如何
に散く彼自身に属するかといふことを示してくれ
ました。個人は大なる全体の原子に過ぎません
で、原子としてののみ個人は考へられなければな
りません。

私が軍団が實戦場から遠退いたので、機動演習
によつて烈しい労働が原因され私達が緩漫な戦
報を耳にしてみながらも私達は私達の軍隊生活とい

—(585)—
私は少くとも力まで軍隊生活を送るつもりです。夢のようなものとして考えていたつもりで、時々ブリスタムやブルジョアに於て私達は呼び覚まされ、眠りを忘れてしまいました。

大戦役の片割れとしての自分の地位を掴むことに出来ないといふ私達の機動経験的理由と目的を充分に説明させられないといふことは私に目を覚ます。私達が軍団を退けて進軍しました。而して八月の下旬にブリダーニャ、メクレンブルグ、ブレーメンとハンブルクの諸地方及びホルスタインを過ぎて八年三年の最初の日にラインに到着しました。平和が（一八四年五月三十日）私達の巴里をもしくは知って居たかも知れません。故郷へ帰り、元の職業に立ち返ることを許され、四年の七月に軍務に服することを希望せぬ向はより友の尽力によってプロシア政府の或る官職に就く豫約を有して居りました。
ベルリンの饗宴博物館の助手の官職に就くことになり、不意に私の運命を変えたのでありま。そこで私は私の運命を知ったのである。これで私は私の運命を知ったのである。私はラインとラインと私の故郷へ行くことになった。そこで私は私の運命を知ったのである。これで私は私の運命を知ったのである。私はラインとラインと私の故郷へ行くことになったのである。そこで私は私の運命を知ったのである。これで私は私の運命を知ったのである。
言いました。
斯くて私は私の見たかつてあるものをあがれて
あるもので知るが在るかを知ることあがれ
私の内がこれ以上美しい言葉で現はされる
私が何して出来ませうと。

九十五、象徴の百合の花

美しが変化に富めども一の百合の花を有せざる
形に於て心の静けさ安寧、生活の譜調は心締
の明潔を要求つあり。

彼の花壇は私には了度渾一及び調和なしに徒費さ
れたりもかな生活のやうに思はれました。

又或る日私は田舎家の庭に多くの愛らしき百合
の咲いてゐるのを見ました、私は非常に悦びまし
た。けれどもあい、それは生垣によって私からは
隔てられて居りました。

その後私はこの象徴をも贈得しました、而して
それが了解されるまで私の胸には影像と憧憬が
満ちて居りました。こゝに注意すべき事があつた

(568)
げばなりませんでした。

この仕事に従事してある間にも絶えず私は今ま
で長い間繰り返しのする事実であることを確信
しました。然らに岩床から抜き取られたこれらの
所謂無情の石及び岩の断片の中にさへ變化発達す
るエネルギーと活動の萌芽とが現れて居るのであ
ります。私たちを巻き込んでやる形式の不同の中に私は
ぞれぞれの変化の下に通する進展の一つの法則を認
めた。従って電気の現象は此處に於ても亦百といふ
現象となって私前に現れて来ました。

私が偉大なるもの高きなるものに於いて人間の
生活に於て、将又神の道に於て人間種族の発達の
ために役立つと認められたものを私自然のみ
中に入れ認めることが出来るといふことを発見し
ました。

私は未曾有の経験したことのない位明かに神
に似たものみが偉大であるのではないといふ
ことを知りました。何故ならば神に似たものは
甚だ小さきものの中にもあります。それは最も微
小な容積の中にものそのすべての全きと力を以て
現れて居ります。而して其後の岩石も結晶も人類
並びに人的進展及び歴史を見出すことの出来る鏡
強く活動し始めました。而して私が今随気を知覚
したことを私は直ちに又とはしありと考へるや
うになり綿密に研究することが出来るやうになり
ました。

地質学と結晶学とは智識と洞察力のより高き部
内を私達に見せてくれるばかりでなく私の考究、
思索及び努力のより高き目標を私に示してくれ
す。自然と人とはその随一の無数の進展の階段
によって互に説明し合うとするものに私には見え
ました。
識から、殊にそれらが根拠から全然不同であるかた
備の研究を経てなかったというふることでありました。
彼自身に就ての智識の基礎と案内及びその智
識を表現する準備を授かります。
私が簡単な自然物の中に斯くも明かに知覚し得たものに就ては私が直きに私の注意を惹く生活の
自然界単植物に、延び行くものに、動物界に、その
謎を探り出した。間もなく私の発見等の心持をそ
の孤立する上昇的な階級に於てのみでなく生活の
全部を通じて正確に直截に立たして置くといふ
ことが人間の教養及び発達のために、人間の天職
の遂行のために、活気ある何物にも勝ってゐると
いふ考へに全然浸徹され吸引されて来ました。
その上私は高等教育の中心、出来ることなら大
学の教授になろうと思って高等教育法を研究し
附に於て私を速かに失望させた二つの欠點を発見
しました。それは第一に私は特別に研究したもの
人というものは早くから直ちに就ての智識と自然
路無心ではありませした。
私は直ちにニツの真理を知覚しました。第一
に換言
する方法の洞察は早から自然に就ての智識と自然
に訓練されればならばぬというふことであります。
れから第二に生活進展のすべての階段を姦て導か
れた人々はその目的、天職、天命を遂行させるた
めに極く始めから誤った概念を持ち人々を相思
人々と一緒になりぬやうに注意されなければなら
いふことを知ったのであります。乃で私は人類
の教育といふ普遍的な事業の中に自分の一身を献げ
うと決心しました。
ありました。例へば種類を異にした根本の形のあ
つまりから進んで来た形を見ると、いふことは私に
不満足の感を起させました。私の思想と努力の前
横つてゐた對稱はすべて
他の形がそれから引き出されるような典型原理と
なるべき自明の形に於て外的の形の下に横つてゐ
るより高き渓流を含し来することでありました。け
れと私は形の法則を結晶のためにはかりで
なく国語のためにも同様に確固と定めたいと思つ
てありました。最後に私思想を惹きつけたもの
は国語に対する特に深い哲學的見解でありまし
た。

余程前に瑞西で私の考附いた国語に関する観念
アツアイが力の精神（内の）主観を現し、子音が
物質、身体、外的客観を象徴してゐるやうに思は
再び私の心に群つて来ました。
生活を通じ、科学を通じ（純正科学を通じて実用科
学を通じ）私は渋一、単一及び人類進展と人類数
育の変なることなく必要確信によって渋く訴えられ
て来ました。一方私は渋一と私の生活の全力を盡して教育体
系に於て渋一と単一を見さそうとする止
み難き衝動に駆られるとしました。私は教育も科学と同様
に於てその渋一と単一を見さそうとする止
み難き衝動に駆られるとしました。私は教育も科学と同様
に於てその渋一と単一を見さそうとする止
み難き衝動に駆られるとしました。
斯くて数月は経ましたが、すると生活は私達を再び一緒に纏めました。これらは一八一五年の非常な関係を結びますでした。けれども直ちに親密ならじての相談を私達は行ないました。なぜならあらゆる事柄が私達を離れていたからです。しかししながら応募書が届くと、私達は前日に勤務していたことがあらゆると教室の思春とによって直ちに士官の列に加えられました。しかも出征するに及ばずというふ呪文を受け取りました。直ちに出征することを信じて来たミッテンドルフはベルリンへ止つてあるのは暂时の間と思って下宿を决めて居りますでした。而して私のところへ、親しくさせることがになりました。

ランゲルタールとミッテンドルフとは、彼等の大学に於ける学費を充分にする為に学務の妨げとな

るのと親愛の思春とによって直ちに士官の列に加

えられます。しかしながら応募書が届くと、私達は前日に勤務していたことがあらゆると教室の思春とによって直ちに士官の列に加えられました。しかも出征するに及ばずというふ呪文を受け取りました。直ちに出征することを信じて来たミッテンドルフはベルリンへ止つてあるのは暂时的間と思って下宿を决めて居りませんでした。而して私のところへ、親しくさせることがになりました。
日本玩具研究会

会员募集

会費は一ケ月五拾銭にて研究した面白
い御協力になるよい玩具が毎月得られ
ます（申込次第、規則書送る）

本会評議員

会員

協力

申込所 東京九段 日本玩具研究会

品用園 稚幼具 玩用庭家

段九京東

館ルベーレフ

益間切申し付片々精も店し致願額を場口後築新御に低廉も最を格価し選精を物品り仕廻奮に務業
候上願を顧愛御の奮付に候申可し慮に需